

試合の時だけだが、あの時の自分のミユートを用いて成功して勝った時のうれしさは、三年間のクラブ生活の最高頂点だ。

苦しかつた思ひ出

浅野朝子

意思に起こりハニドボールとか言う競技を初めて知ったのは、確か一年の終わり頃だ。だと恩います。同じクラブにハニドボール部に所属していろという人がおり、いつも放課になるとクラブの主たる人物と思われる女性が一人、口練習に参加するふうに古とくみをきかせにやつてくる。するとその度に、彼女はいやな顔をします。からも承知してい氏原君曰何となく彼女にハニドボールで二人が二とをするの古と聞きました。彼女でうけたり、ヨーク走り乍らボールを投げたり、ボルに投げ込んだりするのヨ。古と教えてくれました。これが私にとつて漠然とハニドボールにやめたそろですが、もう二度としないでいいとの知識を得た最初でした。これまでボーラーに内にウインター・スノーボードとし、スキーの試合があり私もそれに入りました。

り出され少しに、その時のコートは現在男  
子が行つていい「イールド競技」だつたので  
、一年生の未達は大いに夢中で広いグラウンド  
を走りまわるだけでした。  
試合後、男女クラブの多くは一年生の幹部  
の人に連れてクラブへの勧誘で、私達三人程  
さんぐく追いかけて子供されに未だ向  
にか入寄してしまいました。二年生には引退  
とすぐに入部必然的に部長等の役が定められ  
れわれて新入生の勧誘に必死になつたが、  
二、三人、ハンドボールといふものが他の  
スマークに比べて余り知らなくて何とかつた  
セレッカ・新入部員の勧誘が如何に困難である  
るのか、この立場に立つて始めて勧誘する人  
達の苦労がわからず、自分達の傭を思ひ、  
出し苦笑せずに行かれませんでしに、こう  
いう点では卒業された誰しもの心に共通し  
て鬼に出されたりする事であります。  
て病にかかる状態だったのでも、技術上達とのも  
のより、クラブ自体を辞鏡していくだけでも  
とにかく、私達の時代には一平一ムにも  
となく、なにかく、私達の時代には一平一ムにも  
箱一杯でした。なにしろ二、三人の練習が、  
うものは、いくら革々り出して縫ろうとして  
も浮かんでしません。時外試合等とい  
うものは、いくう思ひ出しても、雨の中、全く

の、"どうんニゲーム"もありました。女で、身中で、その時の姿と、たら今思ひ出しこそきつとし、赤聞する黒いです。でも試合の時は自分自身を小なりに一生懸命やつてつもりです。

ちううと永遠が活躍しきる頃からルームで、女子の場合は床ノフイールドを使用せず、室内と同じ大きさのコートに一定距離で、アニアフシユートが新しく試み始めました。さっそく練習したものの手づかみで、木一木一三ヨンでは得矣に能ひつかず、先輩の方々をやきもきさせたもので

通じて、自分自身の中に如何なる人とも、千一ムワーウを築く自信がつき多めなりとモノスホーツ精神といふ心地るべきものと、あらゆる中で厳しさの中に人の心の和むとかさと、いうものを身につけ、新たに生え活の中へ誇りを持って、あらゆる人々に接する事事が出来、そして今まで艺輩として、時々母娘を訪れ後輩の活躍ぶりを傍観した瞬には一諸になつて舞踊出来う事を喜んでいた。終り

